

学校評価書

2019年度の教育活動等に対する学校評価書

「目指す学校像」

(1) 学校教育目標

①建学の精神である「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」をもとに、真理と愛に立脚し「人のために役立つ」姿勢で明るい未来を拓き実践する人材の育成をめざす。

②隣人愛を基盤とした聖隷学園一貫グローバル人材推進構想を実現し、日本・世界に発信し、地域に信頼される学校をめざす。

(2) 目標具現化の柱

①育てたい生徒像の実現

②特色ある本校教育の発信の強化

③学力向上と新学習指導要領、キャリア教育

④教職員の資質向上とワークライフバランス

⑤安心・安全な教育環境の整備

⑥家庭・地域等との連携

⑦日々の教育活動そのものが生徒募集という教職員の意識

1. 自己評価 ※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
像建学の精神に基づく人間教育（育てたい生徒の現実、特色ある本校教育の発信強化）	成キリスト教の「隣人愛」を校風として常に醸している。	<p>①宗教部の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週一回牧師・信徒教員が礼拝担当。</li> <li>・宗教部会の定例化（月1回）のための時間の確保。</li> <li>・ダイバーシティに対応出来る隣人愛・価値観の醸成。</li> </ul> <p>②「労作科」の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設・校内・農場での「労作」の計画的な通年実施。</li> <li>・竹林労作の実施（高校2年英数科、2日間）。</li> </ul>	B	<p>①宗教部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員・近隣教会牧師協力のもと、日々の礼拝をおこなうことが出来た。</li> <li>・複数の生徒による奏楽が継続的にできた。</li> </ul> <p>②「労作科」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設等での「労作」の計画的に実施でき、心の教育が実践できた。竹林労作も予定通り実施。地域貢献と生徒の環境教育ができた。</li> <li>・中学労作は草取りが多く、勤勉性や社会性、忍耐力を育てるとともに教員側が一層の工夫、改善が必要。</li> </ul>	B	<p>毎朝が礼拝で始まり、職員会議も礼拝で始まることは、建学の精神に合致していると思われる。</p> <p>公立小学校の総合的探究の時間が小学校で始まっている。例えば地域探究、福祉、理想、地域の歴史のテーマで実施。「道徳」の教科化による評価も実施している。</p>
る確かな進路実現	工夫をしている基礎学力定着と学力向上に創意	<p>①個別学習カルテの作成 年5回の2者面談等で利用。</p> <p>②朝学・夕学の再検討</p> <p>③シラバスの見直しと改訂を図る。</p> <p>④各分掌・各教科の取り組みを1つの方向性になるようまとめ共有する。</p>	C	<p>①年5回の2者面談は実施するも、個別学習カルテ作成まで至らなかった。</p> <p>②朝学の代替案策定に着手し、次年度に改定検討。</p> <p>③シラバスの見直しまで至らなかった。</p> <p>④思考力・判断力・表現力を意識し、英作文指導に重点を置くことができた。各教科の取組を一つの方向性にまとめることがこれからの課題である。</p>	C	<p>基礎学力定着と学力向上には教員の研修が必要と思われる。研修の仕方として、研修の定期化、グループ研修の実施等がある。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	武両道の進学校としてのイメージアップ 未来創造プランの各年度進学数値目標達成による文	<ul style="list-style-type: none"> <li>①内進生の学力向上強化し、上位校への合格者増。</li> <li>②高校全体の進学実績向上による生徒募集強化。</li> <li>③強化部活等の成績上位層を指定校上位校に入学させるため、大学入学後もついていける学力の定着</li> <li>④学習システムや進路実績をより工夫して伝える。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>①英数科の丁寧な指導の結果、近隣私立高校と比べて国公立大学合格率が高いことをアピールしている。丁寧な面接、模試結果分析、きめ細かい受験大学検討など具体的な指導の様子を示す。</li> <li>②強化部活の生徒の法政（指定）、関西学院（指定）、立命館（スポーツ）、工学院（指定）等の大学への進学を実現させている。校内選考の段階で特別指定校の模試での合格者を選出している。</li> <li>③公立中学校での高校説明、本校での学校説明会などでの説明を通し、英数科の国公立大学進学率の高さ、それを支える英数科教員の努力を具体的に伝えている。</li> </ul>	B	近年の大学入学定員厳格化により、都市圏私立大学の合格者減が、私立大学全体の難化につながっていることを理解した。英数科とともに、普通科の進学実績向上の努力を引き続き行っていただきたい。

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	学力向上と新学習指導要領対応、総合的なキャリア教育	<p>①学習指導要領に基づく 2021 年度中学校全面改定、2022 年度高校年次進行の教育課程改定を行う。</p> <p>②授業改善として、学習課題の明示と AL の研究と共有(研修委員会による授業改善プランの構築)</p> <p>③キャリア教育プラン策定のため、専門書籍や実践校訪問、情報会社からの実施例の聞き取り等による研究</p> <p>④各学年：意思疎通を通じた主体的なキャリア教育の実践。</p>	C	<p>①新学習指導要領内の総合的探究について具体的な方針を示すことができなかったが、2021 年度からの教育改革として、50 分授業、新教育課程策定の方針を出した。</p> <p>②各クラスで黒板に課題を記載する欄の作成をした。また AL 授業の公開授業を実施した。研修によって今後の課題は見えてきたが、この 1 年の中で改善プログラムを導入することはできなかった。次年度に向けての準備が必要である。</p> <p>③進路指導部長中心に「探究」の研修に積極的に参加した。今後のキャリア学習に生かす予定である。</p> <p>④研修旅行を「探究型」にし、疑問の答えを探す旅に位置づけ、将来の職業観の一助となるように努めた。</p>	C	<p>新学習指導要領の準備が遅れ気味ではあるが、着実に準備していただきたい。新学習指導要領では「探究学修」「主体的・対話的で深い学び」が重点課題とされ、「探究」を通して生きる力をつける、答えが一つではなく「納得解」「最適解」を求める問の設定が求められる。新学力向上に努めていただきたい。</p>
	高校 1 年入学生 学則定員確保	<p>①本校の特色ある教育をより強く発信させるため、中高の財務基盤安定を図るため、高校 1 年生の入学者は学則定員を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英数科教員の出前授業参加</li> <li>・就学支援金支給の対象世帯(授業料実質無償)が増加することを周知徹底</li> <li>・公立高校よりも学習指導・学習環境が充実していることをアピール</li> <li>・スクールバス路線の増設をアピール</li> </ul>	B	<p>①生徒募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試広報部長とともに、英数科長が公立中学校での英数科説明を行い、他校に比べて国公立大学合格率が非常に高く、丁寧に指導している結果であることをアピールした。面接を丁寧に言い、模試結果分析、受験大学検討など具体的な指導場面を示している。</li> <li>・入試広報としてのアピールを計画通り実施できた。</li> </ul>	A	<p>年度当初の最低入学者数確保の見通しが立ったことは良い。私立高校修学支援金拡充に伴う特待制度の見直しが必要と思われる。通塾不要によって私立の方が実質的な費用がかからないことの周知は必要と思われる。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
教員の意識改革とワークライフバランス	生徒に寄り添った一人一人を伸ばす意識をより強く持つ	<p>①教員研修の充実のため研修委員会によるスキルアッププランの構築</p> <p>②教員評価制度の実施：2019年度評価、2020年度教員給与に反映</p> <p>③ワークライフバランスの推進の一環として教科指導、部活指導等、自分の得手で生徒の成長支援を意識した業務展開を示す。</p>	B	<p>①資料収集等に着手している。来年度から実践的に試行して行く予定。</p> <p>②教員評価を計画通り実施した。</p> <p>③個別指導をとおして、国公立大学推薦入試で2人（静岡県立大学看護学部1人・高崎経済大学地域政策学部1人）の合格を出した。</p>	B	<p>教員の自己目標、自己評価が大切である。公立中学ではグループ研修の目標の評価も入れた。浜松市も教員評価を給与に反映させている。私学であれば学校の方針に沿った評価で実施する。時間外労働とワークライフバランスの難しい点は理解できる。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
生徒の安心安全な環境	生徒が安心して毎日を送ることができる	<p>①生徒間の良好な人間関係づくりのため、ピアサポート研修を4月・8月・11月に実施</p> <p>②生徒の登下校等での交通安全指導、生徒の登下校の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路危険マップによる危険個所の把握、見える化による意識向上。TV・校内電子掲示板を活用した情報の共有化。</li> </ul> <p>・小学校工事・設置に伴う登校路の変化への対応・スクールゾーン・横断歩道帯移設を申請する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通規範意識を高めるために、交通安全教室を開催する。</li> <li>・大規模災害発生時の登下校の危険個所把握</li> </ul> <p>③ 転退学者対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の支援希望の調査（不登校・保健室登校などの事前調査）とケース会議の実施。</li> </ul> <p>・通信制高校調査</p>	B	<p>①3回とも予定通りに実施できた。11月の研修では、PTAの保健委員の方にも参加してもらうことができた。</p> <p>②生徒の登下校時の自転車での接触事故が多く課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップは作成済みだが活用が出来てない。</li> <li>・小学校工事による通学路・駐輪場等の変更に対応をすることが多かった。</li> <li>・スクールゾーン設置等は、学園法人本部が検討中。</li> <li>・交通安全教室は例年通り全校生徒で行うことが出来た。</li> </ul> <p>③ 中学校は転学者1人に減少、高校も昨年度より減少の予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の支援希望を調査できた。また、ケース会議を年間6回出来た。しかし、生徒カルテや支援計画は十分に達成できなかった。学年の生徒に関して、親子が納得のいく指導、説明が出来た。</li> <li>・通信制高校、不登校対象の全日制高校を調査した。次年度は校内に学習支援員の配置を予定している。</li> </ul>	B	<p>生徒間の人間関係づくりとしてピアサポート実施を評価。登下校時の生徒の安全は大切。保護者による送迎は幼稚園、小学校、中学校でも増加し、送迎レーンを設けている。中高とも転退学者減少を評価。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
社会・世界の変化に対応できる教育の構築	グローバル教育とICT活用に対応する	<p>①グローバル教育：小中高 12 年一貫グローバルスクール開設を追い風に、既設中高のグローバル教育の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中高管理者の定期的情報交換</li> <li>・欧米圏に偏らないグローバル教育交流を推進</li> <li>・聖隷希望の家、ARI、AHI との交流は継続・発展</li> <li>・地域の国際交流団体との連携。</li> <li>・分掌・教科等での「グローバル」教育に関する取り組み実施。グローバル委員会と研修委員会が各教科で取り組めるアイデア提供</li> <li>・英語に触れる機会の増加の工夫</li> <li>・生徒指導：小学校の生徒指導の方向性・独自性を理解し本校中・高の指導方針を見直す機会とする。</li> </ul> <p>②ICT 教育の問題対応と同時に、問題予防策をとる（例：ネットパトロールの小学校カバー、リテラシー教育の実施等）</p>	B	<p>①従来からのグローバル教育の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高連絡プロジェクトの開始により、実務的な情報交換ができた。</li> <li>・「アジア高校生架け橋プロジェクト」より、1名の留学生（フィリピン）を受け入れた。</li> <li>・ARI への訪問研修を行い、受け入れも行った。研修生来校時には授業への参加もしてもらい、生徒たちが良い経験をすることができた。AHI との交流も例年通り実施した。</li> <li>・細江町国際交流協会との連携により、キャマス市中学生受け入れ交流（1日）を実施した。</li> <li>・高1 学年主任が朝の礼拝後、高1 全クラスで定期的に英語クイズを延べ60回実施。ネイティブ教員がER2 イベントを定期的実施した。</li> <li>・小学校と連携して生徒指導方針を検討する機会が設けられなかった。</li> </ul> <p>②ICT 教育については、問題ごとに担当者と協議し対応を検討した。ネットパトロールを行っているが、次年度は個々人のネット利用を見直すプログラムを導入する予定である。</p>	B	<p>小学校開設に伴う小中高連絡プロジェクト実施による実務的な情報交換ができたことは評価。従来からのものと新基軸のグローバル教育を評価。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
中高一貫教育の推進	建学の精神を基盤に、基本的な生活習慣の確立、学力向上を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キャリア学習の導入による、新しい学力定着を行う。</li> <li>②聖隷の精神を日頃の場面指導や行事内容に反映させる。</li> <li>③成績上位者を伸ばすとともに、成績下位者への懇切丁寧な指導をする。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2学期後半からピアサポートを起点にキャリア学習を実施した。</li> <li>②前年度を踏襲しつつ、反省点を改善してきた。今後6年間を見渡し、行事の在り方を検討する時期に来ている。</li> <li>③日々取り組んでいるが、生徒指導に追われる面が非常に多くある。しかしながら、状況を打破するためには次年度も継続して一層の努力をしていく必要がある。</li> </ul>	C	中学生徒入学者数の減少の原因究明と対応が喫緊の課題である。
家庭・地域等との連携	家庭・地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭との連携の強化：問題発生時に、生徒が帰宅前に保護者へ連絡。</li> <li>②災害時対応、地域防災の充実：防災訓練・教育の実施（年2回）、地域防災訓練参加（30%以上）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭との連絡を落ち度の無いように報連相することが出来た。今年度は問題行動数が増加したが、基本的に保護者との連絡・連携は取れ、協力体制をとることが出来た。</li> <li>②防災訓練は計画通り実施。地域防災参加率34%。</li> </ul>	B	家庭との連絡が丁寧にできたことを評価。地域防災は小中高生の意識が向上してきている。災害発生時に活躍できるのは中高生である。根洗町は、次年度浜松市地域防災担当地区、11/29地域防災実施。



評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
日々の教育活動そのものが生徒募集という教職員の意識をもつ	教員の資質向上のための意識改革	① 教員の意識改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>・私学の生命線は生徒募集にあることを意識</li> <li>・生徒の成長が生徒・保護者の満足度を高めることを教職員が意識</li> <li>・自己評価表、管理者との面談での各教員の意識の確認</li> <li>・満足度調査結果を真摯に受け止め、分析と施策の実施。満足&lt;不満足の数値の項目を前年度より3減少</li> </ul>	B	①教員の意識改革は進んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思の疎通をしながら学校全体でベクトルを一つの方向にまとめることが今後の課題である。</li> <li>・自己評価を行うことによって自分自身を律するよう努力することができた。また月1回定期的に教員の意識・業務姿勢の確認を行った。</li> <li>・不満足的项目が1つ減った。</li> </ul>	B	今後とも教員の資質向上に努めてもらいたい。